

5. JA西条自己改革行程表（令和元年～3年度）

ビジョン・目指すべき姿
<ul style="list-style-type: none"> ○マーケットインを基に産地を確立いたします。 ○持続可能な地域農業を担う担い手を育成いたします。 ○「食と農」を基軸とした直販所を核とした「地域づくり」を目指します。 ○農業生産力増大に向けてのコスト低減や施設整備を行い農家経営支援に取り組みます。 ○消費者へ安全な農産物を提供する取り組みを強化します。

3年後の目標
<ul style="list-style-type: none"> ○加工玉ねぎの産地化 ○パッケージセンターでの販売先拡大 ○買取販売の定着
販売品取扱高（令和3年）
17億円 → 20億円
米 7.0億円
野菜 6.0億円
（加工玉ねぎ） 1.65億円
直販品 6.0億円

農業者の所得増大・農業生産拡大・持続可能な農業実践

加工野菜の産地化への取り組み		
令和元年度	令和2年度	令和3年度
玉ねぎ作付面積 50ha	玉ねぎ作付面積 55ha	玉ねぎ作付面積 60ha
玉ねぎ 買取反収平均5トン	玉ねぎ 買取反収平均5トン	玉ねぎ 買取反収平均5.5トン
生産者30人（内法人3）	生産者30人（内法人3）	生産者40人（内法人4）
買取品受け入れ態勢の確立（施設整備含む）と作業受託体制の確立		
良質苗の生産と供給、圃場の土づくり強化		
部会機能強化と技術指導支援		

マーケットインに基づく販売事業		
令和元年度	令和2年度	令和3年度
玉ねぎ 加工業務用80% 生食用20%	玉ねぎ 加工業務用85% 生食用25%	玉ねぎ 加工業務用70% 生食用30%
パッケージセンター設置	パッケージセンターからの販売先（直販所3、提携店3、学校給食、新規2）	パッケージセンターからの販売先（直販所、学校給食等、新規5）
学校給食等取引 18社	学校給食等取引 20社	学校給食等取引 25社
間販取扱高 6品目58,800千円	間販取扱高 8品目66,000千円	間販取扱高 10品目72,000千円
直売米の拡大 1,100トン	直売米の拡大 1,200トン	直売米の拡大 1,500トン
買取玉ねぎの販売先 加工5社、生食5社		
パッケージセンター稼働	ニーズの把握と商品化、新たな販売先の開拓	
野菜の買取販売		
色彩選別機更新による直売米の品質管理の徹底		

生産トータルコスト低減等による農業環境向上への取り組み		
令和元年度	令和2年度	令和3年度
集約肥料供給拡大 （高度化成・水稲一発・美土里） 30,000袋	集約肥料供給拡大 （高度化成・水稲一発・美土里） 31,000袋	集約肥料供給拡大 （高度化成・水稲一発・美土里） 32,000袋
米フレコン集荷 430t	米フレコン集荷 450t	米フレコン集荷 500t
農薬の担い手直送大型規格取扱拡充10%アップ	農薬の担い手直送大型規格取扱拡充20%アップ	農薬の担い手直送大型規格取扱拡充30%アップ
水稲多収品種への転換7ha	水稲多収品種への転換15ha	水稲多収品種への転換30ha
カントリーエレベーター稼働率向上1,200t	カントリーエレベーター稼働率向上1,250t	カントリーエレベーター稼働率向上1,300t

ビジョン・目指すべき姿

- ◎地域農業の活性化をめざし新規就農へのサポート体制を構築します。
- ◎自給農家から販売農家へサポート体制を充実いたします。
- ◎直売所を核とし地域農業の活性化を図ります。
- ◎消費者と生産者の交流拠点としイベント等で活発に情報発信を行います。

既存農業の維持拡大や女性部活動等による地域の活性化

担い手の育成・確保と労働力支援

令和元年度	令和2年度	令和3年度
アグリサポートセンターを活用した新規就農者2名	アグリサポートセンターを活用した新規就農者2名	アグリサポートセンターを活用した新規就農者2名
農業経営による農業塾の開催研修受け入れ3名	農業経営による農業塾の開催研修受け入れ4名	農業経営による農業塾の開催研修受け入れ5名
集落営農組織の法人化法人設立に向けての取り組み	集落営農組織の法人化法人数 1法人	集落営農組織の法人化法人数 1→2法人
技術継承の為に農家先生による研修5回	技術継承の為に農家先生による研修5回	技術継承の為に農家先生による研修5回
七草・絹かわなす生産維持の為に新規各1名	七草・絹かわなす生産維持の為に新規各1名	七草・絹かわなす生産維持の為に新規各1名

食と農を基軸とし直売所を核とした地域づくり

令和元年度	令和2年度	令和3年度
直売所の集約、リニューアルに向けての検討	直売所の集約、リニューアルに向けての準備	集約リニューアル稼働
直売所のイベント開催毎月1回以上開催	直売所のイベント開催毎月1回以上開催	直売所のイベント開催毎月1回以上開催
水都市集客63万人	水都市集客64万人	水都市集客65万人
JA事業による「地域づくり」への取組み（生活）		
令和元年度	令和2年度	令和3年度
女性部員の拡大1,000人	女性部員の拡大1,020人	女性部員の拡大1,030人
フレッシュミズ会員の拡大40人	フレッシュミズ会員の拡大50人	フレッシュミズ会員の拡大60人
女性部レシピで地域の産品開発	女性部レシピで地域の産品開発	女性部レシピで地域の産品開発
地域児童参加による食農教育と加工品開発	地域児童参加による食農教育と加工品開発	地域児童参加による食農教育と加工品開発

自己改革の取り組みについて

(中期経営計画自己改革行程表 平成30年度実績)

加工野菜の産地化				
H29年度目標	年度末到達実績	H30年度目標	4月～6月	7月～9月
			取組内容	取組内容
玉ねぎ作付面積 40ha	平成30年産作付 早生13.6ha 中生22.4ha 晩生1.5ha 合計37.5ha	玉ねぎ作付面積 50ha	次年度に向けての面積推進。	平成31年産作付希望者30人との個人面談による作付面積確定44ha決定。
玉ねぎ 反収平均6t	七宝：5.4t アドバンス5.2t ターザン3.9t もみじ2.9t 平均反収4.5t	玉ねぎ 反収（買取） 平均5t	早生2t 中生3.7t 早生品種においては小玉であり買取基準に達していない為反収減少。	買取反収3t
玉ねぎ 1ha以上農家 10名→15名	平成30年 産栽培者28名 1ha以上6名 面積25.3ha	玉ねぎ 1ha以上農家 15名→20名	平成30年産玉ねぎ作付推進。	31年産計画では11名
農作業支援組織の立上げ。	玉ねぎ作業員の確保。その他品目の農作業支援準備。	農作業支援組織の立上げ。	玉ねぎ収穫班での稼働。	玉ねぎ収穫～乾燥～調整作業の支援実施約25ha
堆肥センターの稼働による玉ねぎ圃場の土づくり。	補助事業等を活用し堆肥散布機3台、運搬車を導入し圃場散布まで可能となった。	堆肥センターの稼働による玉ねぎ圃場の土づくり。	玉ねぎ以外の作物への供給。	平成31年産玉ねぎ用堆肥1,500tの製造。
加工たまねぎ講習会での技術指導支援。	平成30年産について、生育は遅れ気味であるが順調に生育中。	加工たまねぎ講習会での技術指導支援。	平成30年産の反省。	栽培指針、防除指針の見直しと新たな資材検討。

10月～12月	1月～3月	年度末到達実績	今後の課題
取組内容	取組内容		
平成31年度産玉ねぎ 40ha 定植終了。天候も良く順調に定植できた。	40ha 定植 済 除草、 病害防除の徹底と追肥管理。	天候にも恵まれ順調に生育中。	収穫期までの除草、 病虫害防除の徹底。
早生、中生、晩生と1品種に偏ることなく分散し定植。	現地検討会等による管理の徹底。	天候にも恵まれ順調に生育中だが、栽培技術確立までには至ってない。	天候に左右されない栽培技術の確立。
栽培者数28名 1 ha 以上 6 名	栽培者数26名 1 ha 以上 6 名	栽培者数26名 1 ha 以上 6 名	次年度へ向けた新規栽培者推進。
里芋収穫班による収穫試験の実施。	収穫支援班による、里芋収穫約40a実施。	玉ねぎ、里芋での収穫サポート体制の確立。	農家負担を少なく、経営出来る体制づくり。年間稼働計画の作成。
堆肥散布機2台を活用し天候にも恵まれ1,900tの散布。	堆肥散布機2台を活用し天候にも恵まれ1,900tの散布。	投入3年目になり野菜にも対応できる土づくりが出来ている。	玉ねぎ以外の品目での利用促進。
定植後の管理指導強化、管理検討会の実施。	定植後の管理講習会（現地講習）の適宜開催。	適宜巡回指導及び地区担当 TAC の病虫害調査継続。	買取反収 5 t 以上の栽培技術確立。

新たな販売体系の確立と販売先の開拓への取り組み				
H29年度目標	年度末到達実績	H30年度目標	4月～6月	7月～9月
			取組内容	取組内容
加工玉ねぎ新たな販売先開拓。 毎年2先/累計4先	平成30年産約1,900tの販売先確保。	加工玉ねぎ新たな販売先開拓。 毎年2先/累計6先	1,100tの販売。 販売先4社が中心。	収量低下による975tの販売。
建設 (再検討)	店舗内整備(レイアウト変更等)、生産基盤強化(品目等アイテム拡大)。	設置 (再検討)	会員増強、生産基盤強化。	会員増強、生産基盤強化。
水都市ブランドの新たな販売先開拓。 毎年2先/累計4先	直販所のメリットを十分にさせる品目4種についてイベント等を実施し販売拡大を図る。	水都市ブランドの新たな販売先開拓。 毎年2先/累計6先	メロン、スイートコーン、馬鈴薯での買取販売の実施。 市内保育園2校新規供給。	枝豆の10月収穫買取販売。
加工玉ねぎ買取販売実施。	買取機銃の生産者への周知。	加工玉ねぎ買取販売実施。	スイートコーン、馬鈴薯でも小規模であるが買取販売の実施。	買取基準通りの買取実施6,100万円。
パッケージセンター要件整備検討。	水都市バックヤードでの店舗販売(生姜、ナス等)。	パッケージセンター要件整備検討。	市内保育園2校新規供給。	西条産玉ねぎの多様な販売実施。
バラ野菜の受入。	キュウリ、ナス、生姜等のバラ受入。	バラ野菜の受入。	スイートコーン、馬鈴薯での受け入れ。	玉ねぎでの貯蔵販売実施。約10t
直売米の拡大。 550t	19,000袋(570t)以上の販売。	直売米の拡大。 600t	直販所で米の日を設定し販売拡大を継続。契約業者への不備の無い納品。	平成30年産米の直接販売(玄米)15,000袋3業者との商談実施。
玄米色彩選別機を検討し、直売米の品質管理の徹底する。	品質管理の徹底。	玄米色彩選別機を検討し、直売米の品質管理の徹底する。	玄米色彩選別機を検討し、直売米の品質管理の徹底する。	玄米色彩選別機を検討し、直売米の品質管理の徹底する。

10月～12月	1月～3月	年度末到達実績	今後の課題
取組内容	取組内容		
平成31年産の継続販売先への状況報告と取組計画の報告。	新規販売先、サニーマート、京都青果への提案検討中。	次年度2,000tの販売先はほぼ確保。	加工業務用、生食用での用途別販売。
会員増強、生産基盤強化、米販売の強化を図った。駐車場拡張12台程度。	水都市プロジェクト等での店づくり検討、中期計画の作成。	本店リニューアルに向けての方向性確認。	リニューアル詳細計画作成と会員さんの協力。
枝豆買取販売の実施。	新たな学校給食への納品検討。	保育園等2社との新規取引。	新鮮、安全、安心、適正価格での商品メリットを明確にPRする。
水都市での貯蔵試験販売（剥き玉）。	次年度買取価格据え置き。	平成31年産玉ねぎ55円/kgでの買取、買取目標5t/10a	買取反収5t以上にに向けた栽培管理技術の確立。
枝豆の買取品の商品化、玉ねぎの商品化等。	水都市バックヤードでの商品化。	バックヤードでの玉ねぎ、スイートコーン、馬鈴薯、枝豆の商品化。	水都市バックヤードとの連携による独立したパッケージセンターを稼働。
玉ねぎ、枝豆の受入。	里芋等のバラ受入。	玉ねぎ、スイートコーン、馬鈴薯、枝豆、里芋でのバラ受入。	パッケージセンターの稼働によるバラ受入と商品化。
新たに480tの玄米直接販売契約の締結により1,000tの直接販売を実施する。	新規販売先3社への納品、新規取引先（滝宮CC）1社との契約。	約1,200tの直接販売実施。（精米加工300t、地元業者360t、新規業者540t）	買取価格に加算できる直接販売へ。
設置打合せ。精米工場への設置。	設置打合せ。精米工場への設置。	設置打合せ。精米工場への設置。	直販所での米販売強化、安全、安心の徹底。

農家経営相談とコスト低減等による農業環境向上への取り組み				
H29年度目標	年度末到達実績	H30年度目標	4月～6月	7月～9月
			取組内容	取組内容
TACと連携した融資担当者の農家相談訪問。 毎月40件	月平均75件訪問。金融部門からTAC月例会議等で提案・意見を賜り、各TACが各自面談し提案、相談をした。	TACと連携した融資担当者の農家相談訪問。 毎月50件	月平均50件訪問。金融部門からTAC月例会議等で提案・意見を賜り、各TACが各自面談し提案、相談をした。	月50戸の面談訪問継続。
集落営農組織の法人化。 法人数1法人	玉津を良くする会の立上。組織化には至っていない。	集落営農組織の法人化。 法人数1→3法人	玉津を良くする会の継続及びリーダー育成。	玉津を良くする会の継続及びリーダー育成。
集約肥料によるパレット引取り拡大。 13,000袋	集約肥料のパレット引取り8,400袋 美土里予約7,200袋 実績6,938袋 水稻肥料については一発肥料へのシフトが大となっている。	集約肥料によるパレット引取り拡大。 15,000袋	美土里実績810袋 高度化成444パレット1,920袋 水稻一発802パレット1,405袋 早期引取、パレット引取予約価格にてメリット出す。	当用販売強化。
米のフレコン出荷農家数 5戸→10戸	8戸⇒12戸 373.2t JAによるパレット無償貸出しの実施。	米のフレコン出荷農家数 10戸→15戸	フレコン出荷での問題は無い。	12戸での取組みパレット無料貸し出しも実施。
農業労災組織への加入促進。 40名→50名	加入者22名 労災請求対応0名 30年度加入継続意思確認。	農業労災組織への加入促進。 50名→60名	加入者22名継続。労災対応無。	各部会総会等での推進実施。

10月～12月	1月～3月	年度末到達実績	今後の課題
取組内容	取組内容		
50戸 / 月面談訪問継続。	50戸 / 月面談訪問継続。 税務申告等により未達。	TAC 及び金融担当との情報共有がまだまだである。	TAC 月例会での情報共有と金融商品の理解を強化する。
玉津を良くする会開催による意識統一。	人・農地プラン検討会参加による意見収集。	玉津地区での検討会は継続中であるが、組織化へはまだまだ問題多し。	地域の要望を把握し提案できる職員育成。
平成31年産水稲生産資材予約取りまとめの実施。 配賦完了、回収率約70%	水稲資材予約取りまとめフォロー推進。	美土里7,320袋、高度化成44,415,338袋（内トラック6,000袋）水稲1発14,600袋	化成肥料に比べ1発肥料の使用が年々増、1発肥料のパレット引取り検討。
12戸での取組み423t集荷。	次年度新規取組予定3名への説明及び施設改良。	フレコン出荷についてはほぼ定着しつつある。	600kgフレコンから1,000kgフレコンの検討。
加入者22名継続労災対応無。	加入者22名継続労災対応無。	労災保険該当事故は無。	加入推進の継続と情報提供の強化。

次代を担う人材育成の取り組みと産地維持拡大のための取り組み				
H29年度目標	年度末到達実績	H30年度目標	4月～6月	7月～9月
			取組内容	取組内容
アグリサポートセンターを活用した新規就農者5名。	若手新規就農者0名 脱サラ・定年後就農者2名。	アグリサポートセンターを活用した新規就農者5名。	毎月開催。	行政と連携した農業人フェア等でのPR。
農業塾の開催。 研修受け入れ15名。	絹かわなす新規栽培 予定者2名。 個別訪問による栽培 計画と指導。	農業塾の開催。 研修受け入れ20名。	絹かわなす栽培塾2 回開催による新規作 付者支援。	絹かわなす栽培塾2 回開催による新規作 付者支援。
技術継承の為の農家 先生の登録。 10名→15名	農家先生登録6名。 七草部会・里芋部会・ 絹かわなす部会、各 2名ずつ。	技術継承の為の農家 先生の登録。 15名→20名	農家先生登録6名。 七草部会・里芋部会・ 絹かわなす部会、各 2名ずつの選任。	農家先生登録6名。 七草部会・里芋部 会・絹かわなす部会、 各2名ずつの選任完 了、冬春品目から活 動。
高齢化や耕作放棄地 対策の農作業受託。 10名→30名	玉ねぎ作業受託、サ ブソイラー作業受 託。	高齢化や耕作放棄地 対策の農作業受託。 30名→50名	除草剤散布受託1 件。	玉ねぎ、ほうれん草 でのサブソイラー実 施。
農機共同利用体系の 整備。 田植え機	田植え機リース1件	農機共同利用体系の 整備。 田植え機		野菜用畝立て機検 討。
七草・絹かわなす生 産維持の為新規各1 名。	絹かわなす新規栽培 予定者2名。	七草・絹かわなす生 産維持の為新規各1 名。	新規七草栽培者の推 進。	絹かわなす新規栽培 者のサポート。

JA事業による「地域づくり」への取り組み（営農）				
H29年度目標	年度末到達実績	H30年度目標	4月～6月	7月～9月
			取組内容	取組内容
建設 (再検討)	店舗内整備（レイア ウト変更等）、生産 基盤強化（品目等ア イテム拡大）。	設置 (再検討)	品目拡大提案（旬の 時期を少しずらした 作型）。	既存店舗の整備、西 条高校習字（春夏秋 冬）展示。
直売所のイベント開 催。 毎月1回以上開催。	支部イベントの企 画、メロン等品目拡 大（4品目）によ る農産物イベント企 画。	直売所のイベント開 催。 毎月1回以上開催。	スプリングフェス タ、メロン祭の実施。	お盆対応、お彼岸対 応、わけあり産直品 均一セール実施。 各支部にて優良直売 所の視察研修開始。

10月～12月	1月～3月	年度末到達実績	今後の課題
取組内容	取組内容		
行政と連携し東京、大阪でのPR活動。	新規就農相談3名。	新規就農者2名他1名は継続検討中。	西条以外の地域からの相談もあるが、圃場確保、住居等の問題あり、今後も行政と連携の中で進める。
七草の新規資産者育成農家研修の実施。	七草研修1名、絹かわなす栽培者1名。	七草研修中1名、絹かわなす1名。JA農業経営研修施設での研修希望1名。	研修から経営へのサポート体制整備。
農家先生登録6名。七草部会・里芋部会・絹かわなす部会、各2名ずつの選任完了、冬春品目から活動。	農家先生登録6名。七草部会・里芋部会・絹かわなす部会、各2名ずつの選任完了、七草研修受け入れ。	農家先生登録6名。七草部会・里芋部会・絹かわなす部会、各2名ずつの選任完了、七草研修受け入れ。	部会組織を中心に更なる充実を図る。
里芋の掘り取り班による実証。	里芋の掘り取り班(4名)による実証。40a	玉ねぎ、ほうれん草、里芋での実証。	作業班の年間活動計画及び適正作業価格の設定。
畝立て機の貸し出し実施。	畝立て機の貸し出し実施。	田植え機、畝立て機での実施。	アイテム充実。
絹かわなす経営分析の実施、七草研修1名。	経営相談の実施。	七草研修1名、絹かわなす新規1名。	販売強化による農家所得向上。

10月～12月	1月～3月	年度末到達実績	今後の課題
取組内容	取組内容		
駐車場拡張約13台増。	水都市プロジェクト等での店づくり検討、中期計画の作成	本店リニューアルに向けての方向性確認	リニューアル詳細計画作成と会員さんの協力。
各支部イベント実施 4支部創業祭、みかん祭、感謝祭でのイベント実施。	七草粥ふるまい、支部イベント(大町、中央、飯岡、橘)、新居浜店での米販促。	毎月のイベントは実施したが、年間来客数は減少。	直販所でしか出来ないイベントの実施、情報発信の強化、イベントによる新規顧客の確保。

JA事業による「地域づくり」への取組み（生活）				
H29年度目標	年度末到達実績	H30年度目標	4月～6月	7月～9月
			取組内容	取組内容
女性部員の拡大。 1,100名	女性部員 1,014名	女性部員の拡大。 1,150名	現在970名 1. 女性部メリットの拡大 ①女性部ショップ 2. 地域への波及 ①健康教室主催（年6回）	合同ミニデイ（8月）健康教室（第2回第3回）。 文化フェスタ活動発表。
フレミズ会員の拡大。 30名	フレミズ部員20名	フレミズ会員の拡大。 50名	現在会員18名	9月末現在 フレミズ部員25名。 活動発表。
女性部レシピによる販売用味噌製造5t。	○約5tあまりの味噌加工。 ○4月より米・はだか麦・大豆すべて西条産の原材料を使用。 ○876kgの西条産大豆を買い取り。	女性部レシピによる販売用味噌製造6t。	6月末現在 1,500kg製造。 原材料はすべて西条産。	9月末現在 2,800kg 原材料はすべて西条産。
地域児童参加による食農教育。 出張事業 年3回開催。	計画行事は遂行家の光企画の食育運動に参加し、PR 継続中。	地域児童参加による食農教育。 出張事業 年3回開催。	今年度実施予定の市内3校 （大町小学校・神拝小学校・西条小学校）各栄養教諭の先生5年生学年担当の先生方と打ち合わせ。	味噌加工指導 市内3校（大町小学校・神拝小学校・西条小学校）実施。 市内小学校「にこにこおにぎり大作戦」実施。
「施設から在宅」での介護支援、地域でつながり支えあう福祉ネットワークの構築。	色々なサービスによる「その人らしさ」のケア。	「施設から在宅」での介護支援、地域でつながり支えあう福祉ネットワークの構築。	毎月の管理者検討会にて情報共有。	毎月の管理者検討会での情報共有により、色々な角度での選択肢の提案。
通所介護施設「いずみの里」「みずほの里」運営。	利用人数伸び悩み（認知度の高い利用者さん増）。	通所介護施設「いずみの里」「みずほの里」運営。	ケアマネへの声掛け。 お試し利用の実施。	ケアマネへの声掛け。 お試し利用の実施。
小規模多機能施設「武丈の里」開設による地域ふれあい交流室の積極活用	小規模多機能型居宅介護利用者との交流	小規模多機能施設「武丈の里」開設による地域ふれあい交流室の積極活用	①助け合い組織「いずみの会」ミニデイ ②女性部大町支部手芸教室 ③地域子供会ピザ窯体験	①助け合い組織「いずみの会」ミニデイ ②女性部大町支部手芸教室 ③フレミズ活動

10月～12月	1月～3月	年度末到達実績	今後の課題
取組内容	取組内容		
○合同ミニデイ（12月）。 ○健康教室（第4回）。	○合同ミニデイ（3月）。 ○健康教室（第5回・第6回）。 ○11支部新旧班長会	○女性部員数は948名でやや減少。 ○新しい取り組みとして、健康教室を行った。	○部員増員。 ○地域への波及・PR。
○9月末現在 フレミズ部員27名。 ○研修旅行（淡路方面）。	○3月末現在 フレミズ部員27名。 ○次年度活動計画立案。	○部員数は計画未達に終わったが、月1回の活動は計画どおり行われた。	○部員増員。
	○計画6tの製造達成。	○計画6tの製造達成。	○女性部レシピの製品化。
○小学校およびフレミズのお味噌を熟成庫で預かり。 ○学校給食に招待戴く。	○予定活動なし。	○市内3校の5年生の児童と330kgの味噌加工。 ○市内全小学校で「にこにこおむすび大作戦」。	○味噌以外の特産品や加工品での食育。
○毎月の管理者検討会での情報共有により、色々な角度での選択肢の提案。	○毎月の管理者検討会での情報共有により、色々な角度での選択肢の提案。	○利用者本人の思いと利用者家族の思いの乖離。 ○介護者への提案。	○色々な環境・状況に合った「その人らしさ」のケアを提案。
○ケアマネへの声掛け。 ○お試し利用の実施。	○ケアマネへの声掛け。 ○お試し利用の実施。	○計画的な利用者受入。	○いずみの里の方向性検討。
○助け合い組織「いずみの会」ミニデイ ○女性部大町支部手芸教室 ○フレミズ活動	○助け合い組織「いずみの会」ミニデイ ○女性部大町支部手芸教室 ○フレミズ活動 ○大町地区の「集い場」開設3月～	○交流室使用件数の微増	○交流室利用者と武丈の里利用者との交流機会を増やしたいが、介護と地域活動の交わりに工夫が必要。